

# 大阪大学ASEAN拠点の活動について



海外交流

久田 均\*

Introduction for ASEAN Center for Academic Initiatives,  
Osaka University

Key Words : international affairs, ASEAN, study abroad, international student, Asian region

## 1. はじめに

2021年に、大阪大学は創立90周年、大阪外国語大学は創立100周年を迎えます。その2021年を見据えた大学の自己変革の指針として「OUビジョン2021」を策定しました。このOUビジョン2021ではOpennessをキーワードに「Open Education」, 「Open Research」, 「Open Innovation」, 「Open Community」, 「Open Governance」の5つの指針のもとに「世界屈指のイノベーティブな大学」を目指しています<sup>1)</sup>。その目指す姿は、国内外の壁をなくし、世界各国から優秀な学生・研究者が集うグローバル社会に貢献する大学です。そのようなグローバルな活動をサポートするための海外拠点として、北米拠点（米国・バークレー）、欧州拠点（オランダ・グローニンゲン）、ASEAN拠点（タイ・バンコク）、東アジア拠点（中国・上海）が設置され、各地域でのグローバル連携の支援活動を行っています。

筆者は、2019年4月よりASEAN拠点長に就任し活動をしています。図1に示しますようにASEAN拠点はバンコクにあり、もともと2006年に「バンコク教育研究センター」としてタイでの教育研究支援組織として開所され、その後、活動をタイのみならず広くASEAN諸国に展開するために、2014年にASEANセンターに、さらに2017年にASEAN拠点到名称変更しました。

そのASEAN拠点長として活動してきました1年を振り返り、その活動内容と今後に対する思いを紹介いたします。



図1 ASEAN拠点のある Serm-Mit Tower (バンコク)

## 2. ASEAN拠点での活動状況

ASEAN拠点の主な活動としては、①留学フェア、高校・大学訪問などの学生交流の支援、②各部局の国際共同研究の支援、③ASEANでの交流ネットワーク、同窓会活動の支援、④ASEANキャンパス事業の支援、があります。④のASEANキャンパス事業については本学の国際戦略事業の一つですので別項目で後述しますが、まずは①～③の活動について報告します。

### ①学生交流支援

優秀な留学生を獲得するために多くの留学フェアに参加し、本学の紹介と留学説明を行いました。日本学生支援機構主催の留学フェアでは、タイ、ミャンマー、ベトナム、インドネシアでのフェアに参加し、在タイ日本大使館主催の留学フェアでは、タイのバンコクを中心にそれ以外の南部地方（ソクラー）と北部地方（ピサノロック）での高校・大学を訪問しました。これらの留学フェアでは、ASEAN地域の多くの学生に大学の広報活動ができましたが、今後は連携大学を個別に訪問して、大阪大学独自の取



\* Hitoshi HISADA

1957年3月生まれ  
大阪大学大学院 工学研究科石油化学専攻 博士前期課程 (1981年)  
現在、大阪大学グローバルイニシアティブ・センター センター長補佐 特任教授/ASEAN拠点長 工学修士 専門/プロジェクトマネジメント、キャリア開発  
TEL : 06-6210-8256  
FAX : 06-6879-7106  
E-mail : hisada@cgin.osaka-u.ac.jp

り組み紹介をしていきたいと思ひます。

## ②国際共同研究支援

大阪大学は全世界の大学や研究機関との国際共同研究のために、大学間および部局間での学術交流協定を締結しています。2019年10月現在で、大学間協定が131件、部局間協定が613件あり、これらの協定のもと学生交流とともに活発な共同研究を進めています。昨年度は各部局とともに、タイ、ベトナム、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ブルネイにおいて、ジョイント・ラボラトリーやダブル・ディグリー・プログラムの推進を行ってきました。今後ともASEAN地域での国際共同研究を着実に展開できるよう支援していきたいと思ひます。

## ③交流ネットワーク活動支援

タイ王国への日本の大学進出は約50年前になりますが、近年の大学の国際化を背景に、ASEAN諸国のうちでも地勢的に中心に位置するタイへの大学進出が進み、現在ではタイ国内に現地連絡事務所等の拠点を有する大学が50以上となっています。これらの大学での情報交換、現地での教職員の連携・親睦のために「在タイ大学連絡会 (Japanese Universities' Network Thailand: 略称 JUNThai)」が設置されています。大阪大学もこの JUNThai に加盟し、学術交流の課題や各大学の取り組みなどの情報交換、ならびにタイでの教育・研究活動の動向や社会動向などの共有を行ってきました。その中で、昨年度は3月に「大阪大学のASEAN地域での取り組み概要」というテーマで講演を行いました。

また、本学の元留学生やタイに駐在している日本人卒業生からなる「大阪大学タイ同窓会」と、旧大阪外国語大学の同窓会組織である「咲耶会」<sup>2)</sup>バンコク支部と合同で、タイ同窓会を開催しました。ここでは、同窓生の方々に講演いただき、卒業生の活躍ぶりをアピールするとともにタイ・日本のそれぞれの卒業生の懇親を深めました。

今後とも、これらの交流ネットワーク活動を通じて大阪大学のタイ国内における知名度向上に努めていきたいと思ひます。

## 3. 大阪大学 ASEAN キャンパス

大阪大学では、ASEAN 地域における「質の高い成長」へ貢献するために、高度グローバル人材の育成を目的として「大阪大学 ASEAN キャンパス」の



図2 タイキャンパス：マヒドン大学



図3 インドネシアキャンパス：バンドン工科大学



図4 ベトナムキャンパス：ベトナム科学技術アカデミー



図5 ブルネイキャンパス：ブルネイ・ダルサラーム大学等

設置を進めています。これは、①共創志向：国・分野・セクターを超えた協働、②現地志向：現地のニーズに基づいた現地での直接教育、③地域志向：ASEANの複数国と日本との連携プログラム、④社会志向：長期的な展望に基づいた社会実装による社会貢献、により、ASEAN諸国の学術協定大学に設置する「大阪大学 ASEAN キャンパス」において、現地大学との連携をより一層発展させて、海外にい

ながら大阪大学と同水準の教育・研究活動を行い、高度グローバル人材の育成によってASEAN地域の課題解決に貢献していく取り組みです。<sup>3)</sup>

現在は、図2から図5に示しますように、タイ、インドネシア、ベトナム、ブルネイの4か国に設置済みです。

タイでは、長年にわたる共同研究実績のあるマヒドン大学と2017年に調印式を行いジョイント・キャンパスを設置しました。ここでは、工学バイオ・医療バイオ分野および日本語・日本文化分野において共同研究を進めるとともに、ダブル・ディグリー・プログラムや短期留学プログラムによって、意欲ある優秀な学生を留学生として本学に迎えています。

インドネシアでは、バンドン工科大学において2018年にジョイント・キャンパスの開所式を行いました。バンドン工科大学とも長年にわたる共同研究実績があり、応用生物分野および量子エンジニアリング分野においてジョイント・ラボラトリーでの共同研究を進めています。また、ダブル・ディグリー・プログラムによる学生交流の実績もあり、短期プログラムによる留学も検討されています。

ベトナムでは、ベトナム科学技術アカデミーと2017年にジョイント・キャンパス・オフィス設置の調印式を行い、ASEANキャンパスオフィスを開所しました。ここでは、環境学分野および応用物理学分野において共同研究を進めています。また、ベトナム科学技術アカデミーの傘下にある大学院大学(GUST)とも連携して、ダブル・ディグリー・プログラムや、TV会議システムを使った遠隔授業による教育も行われています。

最後に、ブルネイでは2018年に開所式が行われASEANキャンパスオフィスが設置されました。ブルネイでは、首相府・教育省が総括する3大学とASEANキャンパスの取り組みを進めています。3大学とは、ブルネイ・ダルサラーム大学、スルタン・シェリフ・アリー・イスラミック大学、ブルネイ工科大学であり、それぞれお互いに交流があり連携して活動しています。ここでは、薬学分野および生物工学分野においてジョイント・ラボラトリーでの共同研究を実施し、特にユニークなテーマとしてハラルサイエンスの研究も推進しています。また、ダブル・ディグリー・プログラムの検討を開始するとともに、ブルネイでの英語留学プログラムも構築し

ています。

以上のように、大阪大学が今までASEAN諸国との間に培ってきましたネットワークをさらに強め、現地大学との連携を一層発展させて「大阪大学ASEANキャンパス」として構築してきました。現在の4か国での取り組みにおいては、他の現地大学への展開、より多くの部局での研究分野の展開を図っていくように支援を進めたいと思います。

また、今後はこの「大阪大学ASEANキャンパス」の取り組みを、4か国に限らず、さらに多くのASEAN諸国に展開して、ASEAN地域における「質の高い成長」へ貢献できるよう尽力していきたいと思っています。

#### 4. おわりに

ASEAN拠点長を拝命してから1年が経過しました。その間に実施しました活動内容を振り返り、私なりに海外拠点の役割を理解できたと感じています。

私は、大阪大学を卒業後日本企業に就職し、企業での研究開発に従事したのち、後半はアジアでの現地社員の教育と人材育成に携わってきました。そういう意味で純粋なアカデミック育ちではなく、むしろビジネス界での業務経験がベースにあります。日本企業の多くは、全世界にその海外拠点である営業所や工場を持ち、そこでは現地社員による運営と活動が実施されています。日本人と現地人、さらには多国籍な社員が混在して事業を営んでいる、まさしくグローバルでダイバーシティな社会が展開されています。

大阪大学も、世界中の海外キャンパスに学生・研究者・教職員らの多様で優れた人材が交差し、高いレベルでの教育と研究活動を展開している「世界屈指のイノベーティブな大学」を目指していきたいと思っています。その実現を目指して、ASEAN拠点長として少しでも貢献できるよう尽力していきたいと感じる次第です。

#### 参考文献

- 1) <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/oumode/OUvision2021>
- 2) <https://sakuyakai.net/>
- 3) <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/action/asean>